

コロナで「介護時間増」2割

在宅勤務者ら サービス利用抑制も

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、働きながら家族を介護している人の約2割が、介護に充てる時間が増えたと感じていることがNPO法人

の調査で分かった。在宅勤務の拡大や感染への懸念から介護サービスの利用を控えた可能性がある。

調査は、介護離職防止に取り組むNPO法人「となりのかいご」（神奈川県伊勢原市）が4〜5月に実施した。現在家族の介護をしている800人に、新型コ

ロナの影響で介護時間が変化したか尋ねたところ、65・0%は「変わらない」としたが、23・0%は「増えた」と答えた。「減った」は10・9%だった。介護サービスを利用している人の33・2%は、サービスの利用頻度が減ったと回答した。

同法人の川内潤代表理事は「感染防止のために利用を控えただけでなく、在宅勤務を機に『家にいるのだから自分で介護すべきだ』と感じた人も多かったのではないかと分析した。『家族による介護は無理が生じて行き詰まるケースもある。介護サービスの利用をためらうべきではない』と話している。